後拾遺和謌集

下

特別
イ 4
3163
9 (2)

後拾遺和歌集第十一

戀一

東宮の御方の歌合のときよめる

[illegible]

後朱雀院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霜ふる所の鄰の家にてそうもん侍りける時

平経章朝臣

世にふる所の人なんとうの思ふことを

大江嘉言

おもひやる人のなかりしかはりにてとはるるものは

ふかくてよめる歌

和泉式部

おほつかなくれもかなしくふるにみえぬ人をなに人

女房はべりて法ようつけ歌

藤原實方朝臣

かくとだにいはんかはりにもとはばこそ

たのめぬ夢をよりてなりけ

實源法師

なにとなくあるにもあらぬ身なれども

月のあはれはかはらざりけ

源則成

ながめつつ世をうきものとおもふ

身にあはぬ月のかげ

藤原長能

ながめつつ人をあはれとおもふ

月のかげにぞ身をしられける

藤原長能

ながめつつ人をあはれとおもふ

月のかげにぞ身をしられける

つゆかゝる袖のうへにもあらぬ世をわがこゝろとぞ思ひしら
あてはねかゝる袖のうへにもあらぬ世をわがこゝろとぞ思ひしら

小舟にのりてかゝる所にて

たいらの

藤原通教

あとをたゝてあるむかしやとれつゝ思ふこゝろをたれてゝ

通命法師

おとにあまりいひ出るかたはなかりけり

八月十五夜月をみて

藤原兼房朝臣

てらす秋思ひもあへぬこゝろかな

題不知

藤原兼房朝臣

いとゞあはれまさるこゝろかな

とゝ

藤原兼房

月をみてつゝとゝ

法師

源兼澄

月をとゝ

五節小出

法師

雲ぬけて月ぬけてゝ

中納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行事は織女に別るるとやまれる
人の心はつれなくも
いひく侍れ

馬内侍

逢ことはとこ河の月はいとかりなれ歌
とうう

藤原顕季卿

鶏の鳴かり国まさるとも人のいとはるる
うしろをのこともの名をさうして奇
きつ仏をこにあり法の開はひとまもせ
よう

御製

行さきはをを毋まの恵はれ開のあの母神
たいらす

遊事の仏をこを人の加こうあ心をかりはをけてみえん
ちん

道命法師

みん人ーー次

四つ月きーーふの部下ひをは出ちの明ちの月
ばい

和泉式部

下き秋の雪は草の落しくとも思ふ人は逢ぬ
ーー多

入道一品宮の仏はみちはくみりとつ
うう

源頼綱朝臣

ちく山は月は紫きうく降雪はいとも
のきー

[illegible]

源改成朝臣

平兼盛

藤原為時　はしがき写ナレ　後紙有乱不審

[illegible]

永源法師

赤染衛門　世数十首

[illegible]

源道済

大中臣能宣朝臣

賀茂祭の[illegible]

青柳ひとえ乃ゆらて作る氏女の車より
唐衣の色もとゝまてとゝ法けゆ作る氏
ゝゝ色色れと音秋とも者てやん生ゝ
みの色乃祭乃塩下と新地小ゝ入りて作
けゝ女のゝ行きひとゝわをゝ
徒て作りれてつかゝ作る
かゝ衣むゝ色ゝ色ゝ作ゝ殺ゝ
加ゝ
ゝ人ゝ沢
ゝゝ作ゝ軸乃者ゝ下毎のゝゝにゝゝ者ゝ
題不知
能因法師

綿本ハ元なゝゝ者ゝ者ゝ作ゝ布もよ
丁海ゝ濱乃浦ゝ舟ゝ跡ゝ作ゝ
西園前右大臣
ありとや
世乃ゝ者ゝ
作ゝ者ゝ思ゝ山ゝ
ゝ
小野宮右大臣女
たのむゝ氏ゝ乃ゝ者ゝ物ゝ
たゝ沢
小弁
者ゝ
平兼盛

人ちれ出家遁世まつ小乗の行をおこなひうらいん

長久二年弘徽殿御所の奇合一名に

永成法師

よ秋の

無古郡八の地八月九日の夜の星

俊綱朝臣孔雀明王のたいをつくりてうらこえん

侍従ちかなり古ひ城より

中原改義

世をすてやんあらん人は今はてしぬとこそおもきり

世をふかんは世をすてんとて俊綱朝臣

人をふよりは世作りなりよりは

良暹法師

わさはなれみれとも無古郡

なを恋しき

菊原國房

年ふる夜ふけ庵の月世をすてし恋ふるなん

開白前大臣家の人を経年恋とふ

人をうみ作り者なり

左大臣

見れ勇ハ小帰りたと成よりとハ笑れもとこ

右大臣

ゆうとこえ山の高ちやまの高ちの人のうん

因幡の国にまかりけるに人のもとにまかりあひて侍りけるに

ちはやぶる神のいがきもこえぬべし

道命法師

いとゞかけまくもかしこし

いかにかは思ひ入るべき

後拾遺和歌集第十二

戀二

[illegible]の日[illegible]

參議重輔朝臣

[illegible]

實能朝臣の[illegible]

源頼綱朝臣

いまの人[illegible]

惟任朝臣[illegible]

[illegible]

永源法師

平[illegible]朝臣[illegible]

[illegible]

藤原俊方朝臣

[illegible]

たい[illegible]

源定季

[illegible]

少將藤原義孝

君たのみ給りし命をかなへ給へと思ふ心
人丸をかなへ給へとてよる

伊勢大輔

今日ここ稲荷たまをとりまいて宮けて長
世のしるしり雪ふり積る白かしらかな

右京亮信朝臣

如ここれみやのうちかねとこりまきて長
此まきもこれ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
なるこの方をまきりて行ひしかの
此れ丸こりとして伊勢行れ八
よりて

地蔵菩薩ゆ法ゆ也加ゆ
たゆ

永源法師

遍丸これ坂こり無所
世ゆ法ゆ

[illegible]

西宮左大臣

こりゆ世ゆ光ゆ
影ゆ

藤原道信朝臣

玉ゆ世ゆ我遍坂
知人ゆ

清原元輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとまもなんわかあやとうれまの見や乗うれ[illegible]

四一　童女

むかし乗れうれ[illegible]

[illegible]

源重之

よしの郡[illegible]みの草刈人も言ふかうたに詠ものん

[illegible]

源師賢朝臣

[illegible]

[illegible]大将朝光女のうたに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

讀人しらず

[illegible]

大貳さねより

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高階章行朝臣女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世ひて物おりひ侍らと物ふるかなし
うらとけらるる（初ものゝ田もつ）けるとひ行
ふれ事ゆゑうらみんはひまる

ちゝみ

をゝともにいろうとゝまよひ行ふるとも花ひ出ぬ
物ひとりなけ
ふる五事ふよ

新撰集

閑やうん瀬ふかりうわ川海ふ深く初ふ
道海うかゝ（下かりうふ）ふに女の行ふ

はうけ

ゆひとゝふかりぬ世やゝ
ふるうるあ事や行りふん事ひふる女
ふりふふかりて松ふかまつ家行ける

友人ふ

友人

わゝ心ふうふもけふ和ふん家ふ和ふ
男乃ふんふひふふ行ふひて
世ふを色けふふふとふ家行ふん
ふりふふ行ふ侍ふ

ふひとゝ寺

来ねんとしたまつ[illegible]

入道摂政九月十三夜の事ゝやうにてけ[illegible]

けつ法とうて毎月[illegible]

うつけ歌

大納言道綱母

きこえつゝ家もまこひぬ神乃可[illegible]毎月[illegible]

ゆゝ月閑白女[illegible]

ゆとゝいつゝ[illegible]

[illegible]

馬内侍

曉の露いとはなをけ[illegible]

あすの[illegible]

さかみ

此日はゆけくゝかゝ[illegible]

雨のふゝ[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原能通朝臣

菅原實房朝臣

大納言信

いひくらはせられしもあるかうて

赤染衛門

うき世とも今はみしこの世をてうきものとおもひそめしかな

和泉式部

思ふとはいかにいとへとなれぬれはうきもつらしもあはれなりけり

男うしなひてのち

やはりなんをかまりうくれはいとはしてはいとはしてはいとはして

後拾遺和歌集第十三

恋三

陽明門院御歌

[illegible]

[illegible]

堀川院御製

[illegible]

[illegible]

清原元輔

[illegible]

高階成順（棟仁）朝臣

[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光敬法師母

[illegible]

藤原國房

[illegible]

大中臣能宣朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

民部卿經信

[illegible]

康資王母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　俳諧慶意

たゞかりとまるは月数のこれいむものをよけまたなる
源氏繻朝臣ちのともはべりてまゐらせ
侍りける時如此国乃世わをもくゝみとて
侍りける歌を物に書よう

みゝ人きゝ侍

わさ海やべりの蓑をとゝのへはべりて
中納言定頼卿の所へまゐらせける

大和宣旨

たゝくれば宿中はべりて水絶ゝくとゝいひ
侍りける

大納言忠家

題知

侍りける所へ四条中納言まゐられ
おはしまして歌詠ませ給へ
ひとゝせ歌詠ませ給へ
とのたまはせ給ひ侍りける
歌を世のひつゝけ

よゝ月とゝ寸

成資朝臣やまゐられて侍りける
月の侍りけるとゝ
のりとゝ

わが事成今ハかまくらとこの帰の山松のこだちをよ
五世ちかしさぶらひ侍らんとかのたらちめを
いつ男作りなれとをとせたりえんを
ふとりてつりしげ谷

大人さぶら

松むしとらひこさぶらひ山かりきりんかりもるねをの山と

相模

たいこす

伯耆殿なかねもんかまねとうのうちれたをいる

思ひなりらとれと野寺小海とうとうれ

をわとうとうたりきれまをみたりなり

備都遍救

わが伯耆殿乃志水やあらんへかりんのかけとみえねハ

さぶらうす

大京大夫道雅

なんとをやハをたりをまつりかんなりかれのとうあ

かりうひたりきりとれとうんかを思ひつき

えれとうとうとうとをとて作りなかふとすふ

松海きれハ大夫そはうりなり

お律師慶運

ちとうかかしとそねとやたりんとうかかふとをれを延

[illegible]

[illegible]

大中臣輔弘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源政成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言經輔

清原元輔

和泉式部

和泉式部

たいしの

ちくん

中納言かねもりの山の里にまかりてもみぢをみてよめる

二条院讃岐

たつたの山のもみぢは

大納言良基

ぬしなしと思へばかなしたれゆゑに

なほ

ちる橋良成

たれかまた心のあきをしるべきに

大納言忠家母

侍従の内侍

たのけるまことの道をしるべきに

これ世乃つとめ

権僧正静弁

世の事はしらじ世のつとめ

心のまことをしるべきに

ちくけ

和泉式部

ちくさの世のなかのたとへにも今こそ見ぬ

ちるもとのもとにかへるとは

侍従の内侍

ちるもとにかへるとは

つゆ

計

都の方を思ひ出でて

藤原惟規

都にも思ひ出でよ

[illegible]

[illegible]

毎月[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺和歌集第十

戀

[illegible]

清原元輔

[illegible]

[illegible]

石園法師母

[illegible]

道命法師

遠くまで行く事と思ひ知りて後の年をこそ

たいきょう

藤原元真

みやまぎりやこゝろ迷ふ月ゆゑ思ひ入りぬるこゝろ

惠慶法師

伊勢の海の底いとすみまさりて人もこゝろ

うねのこゝろ

あさ霧の中の月見ぬ海ならば

和泉式部

見れどいとゞまさるこゝろ

しらぬ物思ふこゝろ

相模

やゝこゝろ

秋風

西宮左大臣

こゝろ

暦二年内裏歌合より

弁乳母

人こゝろ

源道濃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相模

和泉式部

世中ふるにつけても思ひのみ
なほ
あり所もなし

清原元輔

ちかのいそふかへにすむとまもとめて
なみ
なりけの右大臣のとわたる

大貳三位

ちりぬるきはのみこそ
なほ
思ふ

菅原孝標女

相模

あまつそらへとはなれぬやいかなる
なほ
なるよろこ
ふかしてはなつ

源頼綱

我袖に
なれ
草紫よりてやいまは家のとまを海
ありそうみの
濱のまつ
ひく

藤原長能

かぞへ
とれ
ぬ
月
とも
ちぬ
とて
ぬ
ぬ
ぬ

つまくとも思へハ物ゝ哀

藤原道信朝臣

青葉なる人のもとなつかしき

和泉式部

ひさしうも物ゝあはれなりつゝとハねのミかゝる物ゝ

貴侍しらす

たゝひとつゝき勇之ゝ人ゝ

君ゝ

川端殿

小雜

わゝ無八月月昇池乃ゝ

原道師

四月加ゝ日者ゝ

よゝ年ゝ人ゝ

四月ゝ

天德四年内裏ゝ

藤原元真

きみゝ

たゝ

[illegible]

中納言宣旨

[illegible]

大和宣旨

[illegible]

小弁[illegible]

民部卿経信

[illegible]

[illegible]

西宮前右大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道摂政

[illegible]

桐模

[illegible]

永暦六年閏裏六月合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

菅原長能

[illegible]

藤原範永朝臣女

[illegible]

入道摂政

[illegible]

大納言通俊母

[illegible]

入道摂政

[illegible]

相模

[illegible]

堀河右大臣

はるかなる海を　平重盛

難波江の芦のかりねのふしみてはあまの心と

音にのみ聞

源重之

松浦やと海乃破屋のあまりせしかは神こそ

わすれ

國少將

かりそめの旅ねの波のあさなさに神とこたへ

雨のみ降りきそよ世中

藤原長能

かきくもる雲のはたてを見わたせば我身の

音にのみ聞

ながめ

源こそあれ

露をかり逢坂の関に

けり

和泉式部

白露を玉にぬきとめ世もすがら

たとへていはゝ

後拾遺和歌集巻十五

雜一

題しらず　　左近衛中将朝忠

[illegible]

月前の山の花ちるを　　宮内卿信女

[illegible]

わすれ草ちりつもるとも思ひ山雪はしすとも

船中月をよめる　　藤原為時

[illegible]

[illegible]　　源師賢朝臣

[illegible]

池上月をよめる　　良暹法師

月前[illegible]

[illegible]

[illegible]

けり　　大納言長房

月前[illegible]

連歌より月[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のいとあはれなりける[illegible]

[illegible]　　源頼家朝臣

[illegible]

月のいとあはれなりける[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

懷園法師

[illegible]

中納言春宮[illegible]

寺にて[illegible]

永徳法師

永徳元年閏裏[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仮月宮来こしてきてよろ

永源法師

我恋をうかべてのこしやわすれこしひの月はなかりけん

頃陽院内裏にまゐりて時雨して

たとへかりせばんーきりぬれば九月十三

夜月成りぬれば

後冷泉院御製

岩のうへの水はくやれとうつる月氣をのこすけき

月夜中納言定頼

淳四平法仁親王

梅の花わすれぬまゝにうゑをけれ春を心のもしるべとな

うれ春をしらはかりて二三日ばかりありて雨

はれ月のうつりかはるまゝにうゑをけれ

中納言定頼

雨ふるはやのうの梅の花をみるにつけてもうつりかはる

人のこゝろの花はいとゝしの月はいとゝうつ

ろはなりけるかな

藤原範永朝臣

月みるとかれるこゝろをなぐさまねとなを秋山のかりねと

松風やけのかれこまりて作りて比賀茂乃

[illegible]
月のれをしろく行きれま

賀茂成助

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

東院中將

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

河院中將

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月はあくれば小一条はなかいまうら
君黄をうちうちうちうちうち

清原元輔

わが身は月にはあらねどもあはれ世をやうらむ
月のあまの思ひのまにまにうらみけり

藤原實經朝臣

いつとてかうらむ秋の月みまいかの元をひ
ちなのうらみ人ぬまうらむ対月懐舊と
ひとりうらみ人へくうらみうらむ

源師光

[illegible]

秋の月とみくまの道をきくのうら

信民部[illegible]

[illegible]月かりはなれて法住寺とかわ

[illegible]て作[illegible]月とみ毎

民部卿長家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名れをつとめて世をかくりて住うつ者る

赤染衛門

伊尹朝臣の人のいえ歌一月新に出てのぼる月を

思いでぬ秋たつ事もまてば位なりけんと云

し秋の月のあるうちなれば

三条院御製

心をあらてうき世ふりぬる身なれ共月

は未確流御時月のあるうけ秋の

乃月をいるるいるあるうまうまを

寄月　陽明門院

六月雲ねの月をあるうあるまを秋の

まんといひけるこころをよりけるのりとに月のあ

かるとをれハ涼うあ者

小雑

四季

小式部

四月の月

月ハ秋の月をまつ夜をかさねまつ夜ハ

月ハ秋の月

月ハ秋の月をまつ夜ハ

月ハ秋の月

侍名れてよりうの

[illegible]

讀人不知

[illegible]

藤原資方朝臣

[illegible]

僧正深覺

[illegible]

[illegible]

藤原範永朝臣

[illegible]

中原長國書

[illegible]

大納言通雅母

仲ノ月ちん山のふもとにて南てんの宴にそんけん
月れたりとりかりの歌入を接ぎまして
まて掛ノ巻仕ノ巻に入れとりけるまま
ノ巻仕ノ巻ノ巻
ちちの歌月ちの月れ山まれたりのちの巻れ
むの歌れ清ノ上の清りて仕ノ巻に入ノ巻
乃ちの巻れん加ノ巻れて巻仕ノ巻

荷宮曲

加れれ月ちの巻仕ノ巻れ巻仕ノ巻れ巻ノ巻墨ノ巻まて感多
たいちの寸

菅孫好丸

廿加賀やあの海れ池乃ちなねのの記事あ巻人
六条ノ巻荷宴月合わんとけるとみき
月ノ巻ちりときて小雑ノ巻に入ノ巻

小式部

あの巻仕ノ巻ちの巻ちれ巻乃行月ノ巻仕ノ巻の巻

五十

小弁

雁遠ノ巻ちの巻浪弁宮月ノ巻ノ巻ノ巻ノ巻
五月四日六条前荷宴月掛ノ巻りわの巻仕
仕ノ巻月小弁ノ巻ノ巻ノ巻ノ巻ノ巻ノ巻
て巻乃掛ノ巻りとの巻仕ノ巻ノ巻ノ巻

前大殿方の小舟の物語八月ところか
とやわんそてさて物のうしろてゆ仕
れそ岩のきあるとしをれうとして
すとそとんそうり者
別当岩かよわれ葛籠等興ひ出て長て
はきの西日仕うそかのとて仕う
作り者はいたりまつ家てつうり今
馬のかい
ゆうそうわそ寺をあわうきまれみそうり岩
ふうそうの通命とひ仕うそにまを
みの日いうそうひまつうそうり社
事母
よんそ人そ沢
思ひ出てとうの紫氏れ天寺法そ絵
ふうひう山家母仕うそうの人のとひう仕
れうそみとそ世長りまれき
中務興仕
山中とうのてとあわ興ひ八つまんをみそうり今
むとれかいうもわをつうり今
兼文世れ
義れとあれゆく世にいうとんとうとれ世長

ある人のむすめあとかたちひつきて[illegible]
[illegible]作り[illegible]られた

[illegible]

[illegible]とて畑四[illegible]男とをとこ[illegible]とて[illegible]のつきけるとて[illegible]
男のとをとこ[illegible]けけるひのかたちいつもいつもの今の
[illegible]きかたいひをきてとりられた
[illegible]とおれゆくとていとをんとりぬけ下草さとり[illegible]
[illegible]ある事ある女中納言[illegible]
[illegible]てたとてとて作り[illegible]中納言
[illegible]女作りけまた女の[illegible]

[illegible]

[illegible]
赤染衛門将通綱母[illegible]
[illegible]

大江匡衡朝臣

[illegible]
宣輔朝臣[illegible]
[illegible]

源雅通朝臣母

[illegible]
[illegible]

わたりの船を見すてきうんの野の浦のあまの
はてんと立れ給へうらみぬれしきりにくれんとみ給けり

道命法師

見れども見つくす事はなかりけるを
をしいそ人のかをみるにやとられてやあるき
塩冷泉院の御時世はうせ事ありて
見れども見わたすことはなかりけるを
なにはつの御時七月七日はりの事

おなじ御時侍従にまゐる

関白内侍

天河はるかに流れきてかつらの木にかかりたるを
源頼光朝臣母にとられて侍りけるを
のを取つかはしてつくりけり

小大君

これもろの花にまれぬえの思ひや散りかひとりの事
大蔵卿章家なくなりて秋風の事寒きはの
たらふ法師ひとりをとこ侍りけるを
つくりけり

清原元輔

なりひさや秋の夜風に寒けきをいとゞ秋なる
ひとりかな
書こゝろ為長能朝臣
作者なをなをの事なるよしをいひわたり
けるを為秋卿伝聞て文の年の春の
初つかた舞よりのち
中務の卿具平親王

いつかれん花の白を加へてぬとゝ行春を惜ん
能宣朝臣
まゐりて侍るに大江匡衡
花ゆへひとゝ世をそへてとゝりうる春の事哉

いとゝ
参議輔親

すゝしさをあはれの袂加へきて涙乃ゝ
陰奥にまかりて
所のあるじみし人とゝ
成はけるとき
能因法師

清華家わ絶こゝやとゝむ人とゝ乃日
毋とゝれ行ゝ
まくるゝ

をのこのひとくちかけまゐて今はかぎりと
すまひをれたるはりくちをとりて
きうとのあひすんけうたりことをはきけ
いとをかしかりしかのひまをせうく
ゆるしまゐらする

大納言通親卿記

[illegible]人の言つれをせてをのをとり月日を加へ今
をとをれて作りうこうをかのかうふ
をのをひの人くにて来られとわう方をを
つて人作りうにけりきれん

源經資朝臣

時毎れとかひをかりうりけれ
をれ思ひうをけ時間いてをり作りうれさ
こうをの時毎ハうと人のをうまて作られ
よめう

少將井殿

人生涯於つる波の言とせ世を乗れ時毎ものとうれ
有中文うせ給うれ乃みの年九七月七日宮殿
前大臣大臣のをとをまつりうう

源朱雀院位制表

こ拾遺集前に清水を違ねりなをとをひのさわ

後朱院ゟ世尊寺へ被遣候事

小九郎

[illegible]

弁乳母

[illegible]

小雑

[illegible]

荷宮出御

[illegible]

一計歌　藤原範永朝臣

いかにせんうらみさわぐ
まもうらんきてとはうらんねみだれ
あらしか

故撰進和哥集第十六

雜二　一

入道摂政殿のまかりなりたりける
ハちのとりとりてせてつかはすとて
けり　大納言道綱母

かりそめの杜の下草ふみしだき
こしとはいはくこしらはいかゝ
といひくゝ侍りける事を

百首歌

大井川ふるき歌の家たる大井川ふるき歌の家

世をわたるなれあり男ひつくり返り
かつて車ひきみ作り名
よろづ人きこす
海老屋清兵衛
中間自かること紙ちぢつかこと牧蕃とあり
りり
寄清をあてこと小行りかつてこそ
いひくれられよ作り
馬関侍
ひとりあり人やうん秋の東とかりとれきみ長
見ひうれたこれはふそあへうひ作られ
新左衛門
春霞ひ出人事とれたるかと浅人ひうる
ある家報信物のひうる女ひかつて
なみあ秋の日ひれ侍ひくあひと
こそて侍ひれ世あかりてよ作り名
小馬命婦
ひとこれ色乃草ひと尺作所といふ世ひてひ
れたこれ東とまて戻くひ作りあれとと
寄て帰ふふれ寄清とあてかうんあ色
ひ世ひこれひひをこ世ひ作り名五事り

和泉式部

[illegible]

日[illegible]

[illegible]

小式部内侍の[illegible]二条前右大臣[illegible]

[illegible]

堀川右大臣

[illegible]

侍[illegible]

[illegible]

平行親[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江の貞相摸守母侍りける時とりこめられて遠江国に侍りける頃よめる

母をわかれてとおもへばかなしきをかりそめとのみ思ひけるかな

相摸

おもはじとせきもあへぬかなしさを思ひ捨てとは思ふ

なりけり

右大将頼朝かうせ給ひてのち世の中いとうきものとて出家せんとしけるを

よろこ人といとなんなりとて侍りける女の

よろこ人

後ぬるものとはいはぬなげきをとはぬ人にはいかでかはいはん

右近大将頼朝かうせ給ひてのち世の中いとうきものとて出家せんとしけるを

よろこ人といとなんなりとて侍りける女の

よろこ人

とゝまりをりてくるしかりしかとも侍りけ

藤原通平朝臣母

世をすてゝ人の加賀はやとゝ時わかれ草の色をもかりそめ

世をすてゝあるものなれとなきてくる

小一条院

曉の鐘はいとゝ思ひきこえ給へる

たとへていふ事とおもふにかなしきは

世をうきものとおもひしたゝんひとりあるこそ

とゝはんとてなきいひ侍りける事

和泉式部

作てあきをかく徒んなりて法の心の月はあらこそあれ
まんといひくさくさまわりてなる男はりと
はうりゝ計ろ
やすらひなる月なれはとてあいふはなるあいふ
後三条院御時なれんまりなる財女房の局
の前なる柳の枝とりて作なる所もなる物なる
なりもせかりなる所なる所なる柳なりなれん
ゝ乃人のとりあるとてこなるとをせうり
き給ん

藤原孝範朝臣

きの柳はいとなる物なれんをなるなるなるなる
貝石文みなる女乃女御とゆえなる財宝
まかりなるまりなれなるなるなるなるさね
菊なるなるくは清是あり給なる

後三条院御製

きさらぬ月かなる乃菊をあるなるなるなるなる
月なるとゆひなるなるなる人の手まくくなる
てまなるくこなるふをなるくなる作なる

馬内侍

むらけ丸なるくになりねるなる琴なるなれる
ゝ月かるとゝ人のりたゆひなる作なる

和泉式部

いせの国なりとかりいつまてせとゝ言人のあるあるを見
聞て男雨のゝ歌よりて来てあまてう
ゝてゝいとをせうかれて
かゝりかゝりかゝる雨降人ゝとあるあまてう独とうん
人のゝとなあまみ雨ゝ男とゝみ雨ゝてゝ
きゝゝ逃ゝとあわゝひけけまは
そこになるゝ人のゝゝいかゝゝ恋いなゝゝかゝてゝ
なゝゝれゝ恋のひけゝゝ女とゝいゝまいて
とゝ思ゝゝ後雨のいゝゝ物ゝゝにゝゝゝと
きゝてゝゝゝ
ゝゝ山ゝゝ雨れぬゝゝ雨とゝゝゝゝ地と
ゝゝゝゝ信けゝゝ我ゝゝ思ひゝれて
のゝゝゝゝひけれゝ女ゝゝ

ゝゝ人ゝゝ次

あつまの国朝臣ゝ女ゝ別ゝゝ後ゝゝ世ゝと思ゝ
し行きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝて侍ゝれゝゝゝゝ

いかにせんとかなしき事のかぎりなりけるに
大納言通ちかはるれば
はるかにけり

中納言宣孝

相模

海士とまをやそなれにしかりわんわまてる秋のよるの
元輔あみかけてなかめしに女なりともにかへ
なりしかに元物をわひくれ
ほとをあてなりとまつらしなら

藤原長能

ちりはてしあるかの人をわすれすに
入道前太政大臣
大臣の家をかりてかうんわとハして
うやをいとをたてまつるによる

馬内侍

春雨はなりしをしたるかんやをまとをはとり
てやうすをかりてなりをかりてはの
をかりて侍けるをわるとこれをかれて
清原元輔

いかにせんとかなしき事のかぎりなりけるに
大納言通ちかはるれば
はるかにけり

中納言宣孝

海士とまをやそなれにしかりわんわまてる秋のよるの
元輔あみかけてなかめしに女なりともにかへ
なりしかに元物をわひくれ
ほとをあてなりとまつらしなら

藤原長能

ちりはてしあるかの人をわすれすに
入道前太政大臣
大臣の家をかりてかうんわとハして
うやをいとをたてまつるによる

馬内侍

春雨はなりしをしたるかんやをまとをはとり
てやうすをかりてなりをかりてはの
をかりて侍けるをわるとこれをかれて
清原元輔

いかにせんとかなしき事のかぎりなりけるに

赤染衛門

有名なる白川院の御時の名歌ども多く撰ばれん

歌

風ふくに松をとゝぬかつるは吹かるゝ方に心なりけり

中納言定頼家集に載せられたり作者は侍従

住侍りける

赤染衛門

金葉集

今宵こそ思ひ知るなれ世の人の秋の夜ごとに恋ひ明かすらん

女房たちの月かりうたよみあつまりて

作られ

大江匡衡朝臣

あるは梅閑のあるを見て

十月ばかりにてきてけるに

人の時雨降りぬれば

馬内侍

加茂にまゐれば時雨ふりぬ神の御心にやあらん

大納言行成に

乃ち物いとよこと物をいひ

なれ馬の色もよ酒ぬれとをひをを

作れる東屋うけうれる色ハ盛長閑の
あやとひはるつゝ立りうとうかつり
こ穂たゝかあされ実はゝあまハよ丸作う

清少納言

東とゝ先て鳥の元ゝ書ハたゝかとゝたゝわつ板の間ハ
尺はれ月わつりはわつりはゝ侍きう人とう
わう人はかゝりて

素意法師

かゝとゝれゝ月乃山ゝを尋れとすきはれ月の乳ゝ
ゝゝ弟ゝうとゝいんとゝうの出ひくゝんと

いとう五ゝ律　さう丸

あつはゝれゝとうかゝはきてうゝも逢坂はてゝゝ行とゝ
信徳朝臣

ひくゝあみつけゝれこゝ五事
もせうゝうゝ俗のゝとゝなゝひ作れゝ稲の
花はかゝゝくつゝけ

紀貫之朝臣

地ゝゝと思ゝ弟まゝり稲花ゝれゝ成ゝ母ゝうは
ゝゝまゝゝと思ゝ弟男はゝうけゝ成ゝ男
のゝゝうゝ言とゝうぬはゝうとけれ
弟ゝ母ゝ作ゝ作れゝ

下野

能通朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

少将藤原義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中原長國

[illegible]

律師朝範

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高階成棟小一條院御所にて新院と
とをいふこと侍りけるを
けるを

中宮内侍

ちりぬるを思ひも出でぬ津の国の
人ふるさとにたちまさりけり

上総大輔

今よりは
こまとをたのみ侍りなん
小一條院にて侍りけるを

土御門院小弁

心をぞ
思ひ
侍りける
なるかな

日ごろ中ごろ
とに
いりて
まいりたる
人の
つぼね
作り
侍りけ

参議輔親

かたらひぬ人を
人のつぼねに
作りたる
侍りけ

大貳成章

礒ごろ人のあまたきこゆるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらうら出て霞の波つゝみかすかにちきりなり
人のとゝまるせゝ出はまさるつゝ

藤原通信卿

あはれ原こゝろ月はこゝろ月ゝあはれ人はあはれ

花原元真

うき事もたゝうら雪ふる山のくもかゝやつゝ心寄

斎宮女御

ゝ風はあをくあさ地の家はまや
人法心乃あきをゝ

後拾遺和歌集第十七

雜三

海中寺棟利為月かりに[illegible]

[illegible]

清原元輔

[illegible]

源重之

[illegible]

大井月海かりて毎月ゆりゆくを[illegible]

大江匡衡朝臣

[illegible]

大江為基

[illegible]

藤原國房

[illegible]

小一条右大将[illegible]

作りなり　源重之

みちのくにわたりの下ちやとて君はわすれぬ　せなかの

堀兼僧院の法こうしにより　つくりまうけり

上皇冷泉院位はなりたまひしとき　みよりの

下りてみちの上東門院よりとりつかり

けり

雲林院の桜の盛りなりけるを見て　天台座主明快

蔵人にて罷こしなりけるひとり

咲きわまりてわれもとにおちぬ　源經任

なにをかはいとはまくはりをとりて雲の秋

一　奥羽通信義人ひとりなくなりたる

頼朝ことにこれをいたはりたまふ

うけたまはる事ハ　国成れいにて思ひたまふ

後冷泉院御時義人にて作りたる歌

詠てみの目大貳之位のつかひなり

橘為仲朝臣

澤水にわたりわたりたるもの　井にこそ

同　清涼殿人にて作りたる世中なり

お蔵人にて作りたる　当時に源時参れる舞人

月かげ入てく紙樂日よりう

梅信家

思ひきや夜れ色のみとりてみてて作と吹て[illegible]
世中をうとみてくもとわかて作うれ[illegible]
とんくうみ待てけう

おん大納言公任

をしなてくしく白菊の八重くれ花の色とそみれ[illegible]
年こうきうてうつと思ひのけさ作

藤原兼輔朝臣

月つ事れわうとやんの思ひんしてあてうう[illegible]

たうかうう乃ちうとうひとと色
て作見けう五事に法うう計毎

藤原元真

春ふうかうて永瀬川ひとかうもとわうやと
身れいうう月成てわ事と思ひのけ
つうう月ふひくかひ作きに成れ
松風んくく

藤原義定

命のうと思ひうとう成れ乃松しきて行り
世中をうみうとう恵慶法師うとう

[illegible]

平重盛

世代の加護と思ひ奉る所の寺院
頼義神宮威勝うちとる海内
うらいまして冠を奪ひ給ふ事
かけてもあん侍らん

津守国基

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同院高雲世師母丹うりはてしこと
母成はしもれは松風心にくく吹くるかなと
松風は多くみなりに市ちうん物思ふ人の身をしるかな
源通濟
世間と思ひみそれてはくくなるものとは松風を吹
秋イ
春中四月加茂のそうそうみ仏ちうこう月と
ちう紙ちうこう侍家ら
藤原為俊朝臣
四月八日丹ちうも思ふ人をとうにはまとうの
ことありて情磨(月カ)ちうこう丹ちうら

五月四日母東へ参ちうこう
中納言澄家
春中ちうこう母ひうこうちうこう母ちうこう
五月五日服ちうこうの弁母ちうこうけう
小弁
ちうこうもあや紙ちうこう母ひきたくこうれ高
静範法師屋ちうこう丹ちうこう事母ちうて伊豆
国母ちうこうれこうのこう五月ちうこう丹大貳
三位のこう母ちうけう
藤原兼房朝臣

音やこゝろ方れとりの子欲人ゑれ生のこゝの契りる多

西

大蔵之位

ほゝき涙こゝ方乃をりに嘆竜きくこゝゑの舟も

こ結とゝきゝゝ方くゝ結りゝ生つきゝ

乃せゝゝゝれゝゝ代ゝくゝよゝゝ

素意法師

生ゝ部をあ乃人神をゝ方こゝ見てゝきけゝとゝれ

冊塔西ゝく保昌朝臣あすかりせんとゝ

ゝゝ和廉の嘆ゝと同ゝくよゝゝ

和泉式部

ゝゝゝ

野一ノ次

荷文世御

大宮殿まうのぼりたまへるに思ひやる心ばせ

東三條院

思ひやりわたる夜ふけかなのくもゐの月

世中をはかなくもとなげくかな

りはつる人の

伊勢大輔

あはれなりけるやとばかりの月ばかりなれどかりそめの

梅花をかりそめにとあり

小大君

北の殿にあるれたるみしう梅花をやこれはいとのくん

京にうつし侍りけるはつかなりしかりそめ

はつかなる世をつくりはつきて思ひそすかりは

寄り世をうらみて京にうつりはてしかば

くれなるの事わすれて

京にはつきて思ひつけてけり

ふみ人をの

とのもとにいとあるに家の方をとりもちてやとて

或人云これは世御御筆の寺也て仏ゑ時も

月ばかりとけるこの仏なんわりなりかて

世の人形にえられて徳衡乃ちにきてつけて
心ゝかりなりけれ世乃山ゝ多くたとこと
ひの初せられ世ゝ有り
世の多くつなく作なりこゝよりよろ

和泉式部

物をおもひ思ひかなしみてあくれば年まよる歳
世ゝつきし人を思ひ出ぬ月ゆりに行く秋くといひも指
なりてゝ行くこゝろをみちとて日さゝり
ゝ山ゝ作りける
いとれて世ゝ多くたれまとも取ハ絶えもこまる
乃ゝ

世ゝ作ゝかく作なれ夕ゝれ中納言
宣頼ゝ世ゝ作ゝ

堀川右大臣

作ゝ乃ゝ世ゝ夕ゝ言ハゝ作ゝ人ゝ
世ゝ

中納言定頼

草ゝ葉ゝをゝねゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ月ゝ
世ゝつゝ作ゝ作ゝ乃ゝ作ゝ
作ゝ世ゝ作ゝ人

赤染衛門

作ゝ世ゝ作ゝ乃ゝ世ゝ作ゝ

世中をのがれてこもりゐたりける人に
ときどきあひてものがたりなどして

源順

古今集にたつたの山秋の雨とはのみてらしたるもの

中納言行平の山里の法華院にこもりてありける
あ市の千鳥の時鳴

園松法師

昭和の賀茂の河ちかき地にすみけるを
文集乃蕭蕭暗雨打窓声といふこころを
よ

大貳高遠

無名の長者にもとめられて
王昭君をうつしたる

赤染衛門

みやまもりみちにもあらぬ雪ふりつもれる軍とうる

僧都懐寿

思ひきやたきの都を立てこのゆきのうちにかくれこもる

懐園法師

みやこ人の嶺の雲にてふるかとぞ見まがふ
入道前の松ぬいまうち君法成寺にて金佛
ねこなひけるこころ法華の時のあんとん

地獄をこそ思やりてこそ[illegible]に[illegible]時
[illegible]出れまむかと思ひいそこそ[illegible]
[illegible]

井手乃わゝ

いかゝ[illegible]くきこえ[illegible]馬の[illegible]
[illegible]出[illegible]日[illegible]右近馬場の
桜[illegible]

増基法師

とゝ[illegible]山辺[illegible]
[illegible]侍[illegible]
あ[illegible]

馬内侍

[illegible]山[illegible]法師[illegible]

菅原孝標

[illegible]
頼家朝臣[illegible]

律師長源

[illegible]
中宮[illegible]

加賀左衛門

伊勢大輔

あけてうれしき春のあけぼの

上東門院わかなの色のうつくしさ

見るにつけてもうたてこそあれ

中宮内侍

きえぬすもしほとなれみるめ人ぬるやあふみのとまりなん

皇太后宮

世の人のうらをもかけてうらまわさ

れぬ人のうらをもかけて

うらん人もうらん

皇太后宮大夫道信

あけぬとも思ひ分かぬ夜の袖にうつるは

月

伊勢大輔

春の来ぬ夜の袖にわかれ

ぬ一条院の世のうつりかはる

元行幸法師ゆゑ横川にとまりあり

きゝ上東門院のうつりかはれば

中納言朝基

世の中はうたてあるかな

御月

上東門院

きえぬとも思ひ分かぬ春の世の

ものとはなしに

世俗うもくんて切りく侍るこゝろ

前大納言公任

思ひ分人もありなむ世中とゝ氏の法師長谷寺

三条院御宮

夏のうらゝてふりきる

藤原俊成

君よ人忘れぬ物ゝ思ひ山ゆゝしの塔の高ゝ

三条院御製

けれ

わすれ草思ひ出て山人とゝ引くゝ見れ物

法師よめてすん作りけゝこゝろ桜の花

前中納言義懐

侍るこゝ

尼人を見れのこゝ引高ゝ心ゆゝく言きこゝろ去れ

世をこゝ物てゝ長谷寺作ゝ氏入尼中れ

北野ゝ詠ゝ

市聖

前大納言公任

花見れ日ゝ思ゝ西ゝ人心ゝやゝく丁人物と

良暹法師大原ゝこゝ引わきてつ

ゝけゝ

素意法師

夕草ゝ松ゝ氏ゝ尼ゝ水尼ゝ心ゝ月ゝ新ゝ行ゝ

五

良暹法師

汗とこそ思ひしかども大原やおちうち出る水はなほ
良暹法師乃りをふつうけう

藤原國房

思ひ出る心はいとこそ深けれ大原山のあさぢ分
とこそなりぬる法師の山こゝろ引そ行ぬる
うとゝうりかてそ毎ありとくまきとゝ
て侍ける五事はつうけう

律師朝範

はとゝすはいつとゝ分きあつさ引海人の重ねのたゝ
ちうふ

出家する日すゝ仕ける人のもとに
ゝひとく侍ける法ゝけう

上東門院中将

杉を出る風れ出ぬ人も有れ山の月
かけひの水はたゝ引ぬ

後拾遺和歌集第十八

雜四

別所朝臣乃を[illegible]みたれふりて
こけ分の松と見え侍ける

橘季通

[illegible]こけ分れ松は年を[illegible]と都人いつとなくこそ[illegible]
尺ちのくにこそ[illegible]ひとりて[illegible]
けこけ分れ松を作[illegible]れて見侍る

舞子乃松の[illegible]

紀国清[illegible]

熊野詣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

增基法師

山かつの[illegible]
作者[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法ゝ

藤原為善

旦ゝ殺生を無ゝつゝしみ海ゝ山ゝ川ゝ原ゝ野ゝ
賀茂ゝまゐけ給ひ
りとれかりねはうかとらひとく作ゝ
とゝて亦海ゝ
者

長谷ゝ観ゝ音ゝ寺

為ゝ神ゝ殺ゝ生ゝ祈ゝ願ゝ給ゝ神ゝ
海ゝ山ゝ川ゝ原ゝ野ゝ

安法ゝ師

一　かゝゝゝ和ゝ
ゝゝゝ年ゝ月ゝ日ゝ紀ゝ乃ゝ中ゝ
賀茂明神女の
ゝゝゝ作ゝゝに女の作ゝ人ゝ
海ゝけ給ゝゝ侍ゝ
つゝて世乃者ゝ
ゝ作ゝ
ゝゝゝ
ゝ

賀茂明神

ゝゝゝ

やとんとうけたまはりこれをまうしつけ
まうしつぎぬ　　赤染衛門

名をのりせんとおもひきれどもなほとどめて
貫之の集とかりてとりてみけり

ひとをもみちをもこそとこたへたりけるを　　恵慶法師
弾れけり

仲丸のもとにかはりかりのまうしをこと
紀時文
紀時文

清原元輔

かずかずあまたあれどもかの章ときてをりてをりてのぼる
家集をかりてよめるなり

祭主輔親

仲務大輔の集とりてかへすとてやちよをへん
りはをしをしとこそ

康資王母

坂三条院の時月あるをりをりに人々
よんにたりけるに人々歌をまうしたりけるに

[illegible]

塩三条殿越前

いかに乃家[illegible]

七月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

塩三条殿[illegible]

義忠[illegible]

[illegible]

赤澤宗[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

良暹法師[illegible]

[illegible]

藤原孝善

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六条東院宣旨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

馬内侍

うかりけるみの程をしらでのぼるかな
はるかなるをりて作けるに大なん
雨ふりぬのこゝ侍れをつゝる所をそなへ
事をつけをり計る

藤原孝標朝臣

松の尾の社をまつ神の末ながらへん
いつゝ年乃すゑいつゝ家

後拾遺和歌集第十九

雜五

坂冷泉院みこれ女御の時二条院
にまいりたまひしに
やりかんなみ作家
出羽雄

春ごとに花のにほひは
二条院東宮にまいりたまひし
ときに前中宮のこの方にまゐ
りたまひしに人の作りたれ

大貳三位

春ごとに花のにほひはかはらぬを
ものおもふ身のなげきをぞする

出羽弁

春ごとに花のにほひはかはらぬを
坂冷泉院みこれ女御
の時人のもとに
はべりける
春ごとに花のにほひはかはらぬを
ものおもふ身のなげきをぞする

源為善朝臣

新國書の山の山の花の盛ひ見ればわが身ぞ
三条院書をかせたまふ時式部の数儀紀

[illegible]

侍ける

入道右大臣大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一條摂政殿

一條摂政殿は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法住寺大臣殿

六条右大臣殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

選子内親王

入道太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

選子内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上東門院中將

[illegible]

[illegible]

六条院宣旨

[illegible]

[illegible]

入道右大臣

[illegible]

前大納言

[illegible]

二條前右大臣

[illegible]

上東門院長家民部卿

[illegible]

[illegible]

年ふる年ふる雪の夫の日かりにわらをうちきる
家と加へ一に寸とあるもられるもまれ
伊勢大輔

冷泉院東宮と申けゝ時世の石井に水を
くゝうゝ五月雨よりなかれ出たる
つゝをれゝ
源重之

ゆゝ泉千
ゆゝ泉千寸ゆゝ清水は乳れたゝ
春町ゝ白人ゝ
泉山院御製

吉野ゝきゝゝゝ

思ひ出てうたのことを別つまつりていそ
侍らん中はなんていうけ為

伊勢大輔

やくもの山井の水のうすゐかうちとけさ海のかつらの名り
中納言實成家相撲の立節さそ月の名
はいとうの花の微殿帯刀のたちに行名
人手つきは出てうりうと中文はれた花
人て清乃うはきてくんのうの名ことしき
はかりつまとてみるんけとを喜と思ひんと
いのくんはれてたかはれあるはよりうの品の

山法りのうくに行年に日かけのうの成む
すひつまてたきとはとてあまこそて花
世乃御方は侍らう人のりとうと松ゆく
てたの京のきんの乃りとはとうて果の日さ
ーとをうう

たんの人きう次

松は加色うの花家人作自りて志の日新とあうれと
かて作所為命はりて二条前太政大臣殿
はは作て条はつひ志作りうにあり志のさ
にうんのう自の花のかうひうれのうにうん

あるじ[illegible]つる[illegible]ん中[illegible]れ[illegible]かれ[illegible]や
四[illegible]けと[illegible]ほ[illegible]くてかみのうへ[illegible]ありて
うまそ作り[illegible]

藤原長能

ひけ草かやく新やまかひ[illegible]ん月[illegible]れ[illegible]ん[illegible]を
[illegible]ん[illegible]人乃[illegible]節[illegible]れ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]つ[illegible]の
かつきあよわを[illegible]ひとつけ
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]りけ[illegible]わ[illegible]れ
けま加[illegible]ひ[illegible]け[illegible]作[illegible]

選子内親王

神代[illegible]れ[illegible]ひ[illegible]かつ[illegible]

一條院御時[illegible]節[illegible]
ひ[illegible]ふ[illegible]ひつ[illegible]
つ[illegible]侍[illegible]
ひ[illegible]

藤原實方朝臣

[illegible]

有明乃嵯峨[illegible]
物[illegible]侍[illegible]
作[illegible]

源頼家朝臣

[illegible]節小[illegible]
[illegible]

人々をつかはしたりけれとこそ
かねとおもてをかくしてけれ
よみ　法眼源賢

ありしきやわしはゆめかうつつかこれ人の色ぬれとこそ
ちのあまもすそのかはかりをしかはうつつ

信濃のくらもちのこと　平四家

一条院御時大納言佐理つくりけれ
ものかきなりけれはいとあ
うまそこそまんとて　よてつかはす

よ月七侍けるよみ　源重之

都へとりもちかへりいきかりをもあはんと
文ぬしにはかさはてはかりをもあはんと
乃そのち成順ゆかりけるありて行ける
ちそよ　中将君

ぬれみのあはれ人の殘れ第隙ぬれはかりをわはしらあ
阿波守為ゆかりて文をかりあはかりをあり
下ちにこつちとれとこつちの前ゆかりのこつを

尺てしたゝ　菊原基房卿

こはた兵浦ゆ　ゆてしたゝ流しわかれとこゝろ

和國紀長紀伴守して　ゆ　ゆ時いつき

事ありてまかりてゆとしたゝ　ゆ　ゆ

しりえいしたゝ

連敏法師

老の波とをとゝいつゝとしたん　ゆ　わつの浦ゆ

肥後守義清　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

野ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

五事ゆつゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

源兼長

しらゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

源兼俊母

廉頼母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石山月ありけるみちに山ぶきの花を

やすらひにいとゝ家あるところあるさま

みえたりけるいとかなしくなりぬ

とよみたりしを侍りて

和泉式部

[illegible]

山寺僧養の後[illegible]前大僧正の[illegible]

つゝ[illegible]

[illegible]

堀川右大臣

[illegible]

山里月かりあるかなるみちに家ありて

糸の家地[illegible]

[illegible]

東院に入[illegible]

[illegible]

侍りて硯箱のふたにかきつけ侍る

伊勢大輔

こゝ[illegible]かりは[illegible]

山里月かりて月をみて

源[illegible]賢

月をみる人を[illegible]

[illegible]

あるじして日暮れぬれば如月ばかりければ

梅後細朝臣

都人うれしと帰りゆく海ばらの水もまだ冴えぬ春の色

かすかに人のたとへかはしてまかりぬ

そこに梅はなくさまやあり久しみ作る

よみ人しらず

枝をすき宿もむすばれ宿ばかりかくれぬ人のこころ

初元乃山に二月五番として花をつくる事

くりかへれ花つくる世界として人の山をひのぼる

て作る歌に初めて出て花のひらくこと

蓮仲法師

一　思ひ出て

おとひきやあるじ人をあはれとおもふ山をうんぬ

あるべきは庚申しけるは篇のうれ琴

乃ぬしなくとみ作る

大中臣能宣朝臣

うえあげてうゑうゑられたるかはらをうれをきさま

入道一品宮の人々とりかはしてあるひ作る

或部に敷貞はみこふ歌をかたらく書き

作られてうのみ方りとにてうゑ人のとと

すみ乃日とうの間れ桜ーかりしーひ

相模

大中臣能宣朝臣

一

法師の色衣ぬれぬるかな

源重之

一

法師の色衣ぬれぬるかな

藤原為頼朝臣

小倉山峰たちかくす雨のうち日

人の名をたてしかくれぬ

てしらぬ人の作り出ぬ山市

毎夕の日山陰ぬれて

をこせてくれ給ひ五事にいひつゝけ給

中務の兼好の歌

ありあけの月見ばかりはあけもせず山路の月の乃月はひとつにあらぬ

清奥寺則光ゝ人あて侍ゝ給ふ長い長

ゝ給ひけるとしかゝるひ仏もゝ甲斐なん箱

に入くゝるゝんとあり給つけてといひくゝ作る

まかり出くゝ作ゝ成人くゝせゝてせゝとゝれん

ゝゝんとあるいつゝ長ゝとゝひとゝせて仏ゝ

五事は先ゝとゝみくゝ法ゝゝゝゝゝ則

光心とゝそいゝ月せゝとあゝゝとまゝて

きて

一

ゝゝ侍ゝゝれゝよゝ

清少納言

かゝるまゝゝあまゝ此ゝゝ御ゝゝゝゝゝ

松ちゝ出てゝひ作りたれまよろ

慶範法師

思ふも侍るかひなくらんれいたてねたひまきろ
はたらりの作りて道雅三位れうたまて
まつ君こゝ雅たゝり名とひさなすたゝ民
うみたりつるものひてゝみ侍るる

師前関白

法華せにあるまてたれもたたれ雲ハ本をく嶮
お侍堂寺義教寺前左政大臣のまま
やまたりうりときてゝうけるる

一

天台座主教円

いかにかはあとゝ秋あるをあらしも
君ハみりさとりてゝみれ

後拾遺和歌集第二十

神祇雜六

長元元年六月十七日伊勢の内宮の使ふ
はりて侍りける像の雨ふり風吹てつき
たつる俄宣旨を奉て
はやけの御事ゆへ作られ侍りける
しるくはみな紙にかきて加へ侍りけ
ひとつ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

一　御和歌ありけり　参議輔親

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

一　御和歌ありけり　参議輔親

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ
ひとつきはやけ

世中に有くる時さとれる宣旨

てとりつゝまつるとて有ける

ゆきとしの年をまちえて人々作る歌

白妙のそでをみくしとりとりていとひそめし初雪の降

とゝりのわたる年の心まち　藤原長能

こゝに有る或人云世中にながら作る所の歌

罪もきえたるやとゝ井とゝ井て

松ゝや年を神馬にまつり給へとゝ

以法之

一

一

縁有りてゝ作ける

恵慶法師

いなり山こゝの玉垣うちかはしあはれ事とは

すみよりの浦かなつけ作る

山口重如

すゝきの松ゝ白ゝ波のうちかけ

一条院御時はつ松尾の音作侍るに

うゝ月ゝ有つゝ

源兼澄

ちゝやゝの松の色ゝ千とせ

坂三条殿社頭にて先ず日吉社頭幸
侍りしに、あつまの方にうつる所
歌ども、みな侍りし

大貳實政

あらしふく日吉の社の神垣
おもかけ紙蘭より幸行くあつまの
うひてうつるぶらく先行くなり

藤原經衡

地蔵の神のうれしかりける
一　大原野参詣上りて見侍りて

大原野参詣上りて見侍りて雪
ちらく降けるを見て侍りし

治部卿伊房

一　乃ちらく降けるを見て侍りし

榊葉はみな雪の降ぬれば折れもとまらぬ
或部大輔資業伊勢守に侍りける時の国
北三條の邸にて
なげよ先ず

紀国成卿

うと濃はまの浦乃と夜荷をて有りし神やなのこと
大貳成章肥後守にて侍りし時河藻社頭
御供奉来りて侍りし時
みな侍りし

わすれたるこの神のみちをわれいかにせんとかなしみてよみてつかはす

歌人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

釋教

山階寺涅槃講

光源法師

前律師芳還

慶範法師

伊勢大輔

二月十五日於夜中

伊勢大輔

二月十五日於夜中

伊勢大輔

二月十五日於夜中

伊勢大輔

二月十五日於夜中

伊勢大輔

二月十五日於夜中

伊勢大輔

法華経をいとなみ給ひしの
ありさま
織法花経の仏名にて月日をも
関白殿侍りしかばとこひ仏名をとこ
せくなりけるなり

八重菊

弁乳母

右宮大夫公五部大乗経供養せさせ給
ひしに法華経をわりあてまつりし日
けり

康頼入道

右兵衛尉なりし法花経を取て
ありしかば

一

右近衛門督大将家女房車にのりあひ
乃てはなつかりしかば月のくまなく仏名に雨
降りぬれば人の車は如ぬ侍りけるつ
との車はなりぬ人かずもあひて侍り
ぬ月の名人のなりけるつとめけり

ちくぜん人

ところにて人の車のしりしてわまいりぬれ雨ふれ
月輪観をよみ

信都覚証

月はなんぬかけしなりぬ

維摩経十喩はかのこれ勇芭蕉のこと

前大納言公任

風かけて月の面をわる草の葉よりこそ露の玉は転ぶなれ

同喩の中より乃勇水月のこと

小雑

春の夜我身の影は月の前に世の中見えぬ事しかな

三界唯一心

伊勢大輔中将イ

地獄極楽は別に心の内にあり地獄はきく

化城喩品

赤染衛門

[illegible]

一

道とは中空なるやうに思ひかりの前そうれしき

五百弟子品

赤染衛門

夜の月もかけて[illegible]

寿量品

康資王母

見れば山のうつる雲やあるらん月は[illegible]

普門品

前大納言公任

世を捨てふるの山ぶしの[illegible]

書写乃部

結縁経供養の侍る人

くりかへす世をこそ中に[illegible]

[illegible]

遊女宮木

津の國の難波のあしとう法師ぬれてをたんの重荷
とゝきけ

誹諧奇

[illegible]

續人丸

[illegible]

梅香通みれば[illegible]

[illegible]

[illegible]

儒正深[illegible]

一

河原院にてみ仏参り

大江都言

[illegible]

江侍従

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六条中将親宗家母子日其堂供養
者民部卿為相卿
尺行平卿

源為長朝臣

君なくて松をかりてそ
今宵我ゆとそ
なりぬる人我松をもとひとを色て
まつよりの歌

為相卿

立れとそ月をいとはん
緑竹不弁秋之
知ぬ

大蔵卿師經

尺とりて色をかへてはなれ竹小夕長をやわをちん
永兼宮年内裏歌合日松をよめり

前左宰相 資仲

いくとせ経ぬ
うへの
ろをうゑ

御製

よろつ代をもちてはこの君の
きはまりなき

藤原義孝

みやまぎりをたてまつる

宮法師くにを奇とて花ぐにに山家旅宿

かすみをたてまつる

民部卿經信

雜ねたるやとのみやまぎりをたてまつる

関白太政大臣の家にて名所を

とりどりにけりなる

藤原範永朝臣

島をわたりてとまりたる所にて

すみ浦にあるいねのあるを除

藤原經衡

立のぼりてはいとけぶりてもあるかなとて

龍門の滝にて

中納言宣孝

なくなくもあるかなとの滝にいとの水のなくなるを思ひ

なしひの月龍門よりいりて歌のことにて

國の人義忠朝臣にて乃花の作ども

いとみやびたる作者

雜の先乃

物いとことにまよりけるを乃花いと世にてる滝の白糸

月さえてなくなる滝のまことに

あくれはせをいまてくるみ作けり

世をいとふ人のこゝろの紅葉かな　荷兮兼房報恩

大悲寺乃たきのとみくるゝ作りけり　の滝の

あをふけり滝つ瀬やこゝ人の名ゝ　赤羽楽門

法輪よりいりてゝ見作りけり　源通術

とゝまれとゝまれとゝまれと大井川　昔のかこそ物の哀れ

かつらの雨人くまりくゝ行てゝ文来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂上俊院御制歌

[illegible]

民部卿信信

[illegible]

恵慶法師

[illegible]

藤原為長

平棟仲

[illegible]

源頼實

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天王寺詠いとてのうたとんそてき

仏けの

赤染衛門

見れとかすかうち松の木にうつれとも今年さ

上東門院すからにまいりて色たかひく帰

るさ人うち奇うみ侍りける

伊勢大輔

いかにせん春の行方を夜の雨にかすみてうつれとも

錦の浦とうらみとうして

道命法師

名をたに紅錦のうちときてみるとのうちあはれ

さ

さけ屋の松はうえ来ぬとうたてうるはあるはさ

たのうえ

源通源

ちうえうの楊氏人の松をもやさてれわうえ

藤原寛弓朝臣

もう地の女郎とやわうと尋ねんわ郎の月さ

三月三日人のうたれ郎をうし

大江嘉言

桃のう郎宿ますそれいかうえ三月さうとれとや人のうた

三条右大臣のうたに侍りう人のむ月氏

はるくかうう女郎やはうとうてむ月

とうてあさまきくつみをうかべていひけるに三月
三日かのまつりのことをあるいとこそ侍さ
しけるよ侍らん

藤原実方朝臣

尺八笛のをとをいのちにきけはなとあるけ
ふ世間をうとくとそ侍なる

和泉式部

思ふ事みなつきぬとあさけをりにきるをそてをた
ひらをひらく侍なる人の今の者をとうもあらんとこそ
て人のをとにかりうあるよ名残ぬけなる

一

一

六月七日はうつ者

皇太后宮大夫俊成

君をこそ思ふ心をとたのつかはしやうのさ
小一条院へ道前を改大臣ぬけうの家
所をもへ面をくにをとをみけな

堀河右大臣

紅葉ふ錦ふ雨をとはしとそをやよをうをの
をみをれをり果をふ風ふてをあさけれは

惟基法師

おちつをを庭をふをそをうを物をとをそ見のをきにをを

人のすがたをまつりてこのひ参り給へる
よし人きこえし

心行大原山にすまひのふかきをもとめて
たづねられ

天台座主源心

雲井よりいそぎ行く都とは思ひよしてかくれかりにまかり
法師の扇をとりてかけ給へる

和泉式部

はるかなる月をまちいでてあらはれぬるかなとて
歌ども

今こそ見

こゝのそをあらはれぬるかなとてくつきなとうちなる
の書

七月十五日はれわたりて月いとあかくて東面にて
たゝけり

少将藤原義孝

月見れてこゝろのうちをかたりあはせ
三条院は時々の月夜よりて人
人々海にうかびて
人々海にうかびて
けて殿上人ども
けて殿上人ども

小大君

みちのくにまかりたりしに
人乃草のいとをもとめて
わたりたりしに

[illegible]

[illegible]

[illegible]